

ミュージアムの自然観察用散策路整備と昆虫の集まるビオトープ作り

三宅 隆



静岡南高校時代の自然観察用の散策路入口

3月に開館した「ふじのくに地球環境史ミュージアム」ですが、実は静岡南高校時代に、外周の一部に、自然観察用の散策路が、先生や生徒の手作りで整備されており、花木や果樹が植樹され、一部ベンチも配置され、高校生にとって、植物や昆虫の良い観察場所となっていたようです。散策路の延長は400m程ですが、起伏に富み、途中からの景色もよく、生物の授業にはもってこいの場所です。しかし、高校の閉校に伴い、散策路はそのまま放置され、雑草が茂り、道の階段なども壊れて、荒れるままになっていました。

自然系の博物館では、来館者や子供たちのためのフィールドを確保しておくことは、必要です。NPOの前身の静岡県立自然史博物館設立推進協議会で、その当時県への要望書や提案書で、自然観察の場の必要性を訴えていました。

ミュージアム開館からすでに8ヶ月、NPOの職員が暇を見て草刈りなどをしながら、少しずつ整備をしてきましたが、階段などの整備には、土止めの材料となる材木や杭、そしてそれを実施してくれる多くの人員が必要です。

NPOでは、10月に、県にこの散策路の整備を提案し、自然観察の場として来年度から利用できるよう冬の間に、県職員やサポーターなどを含めて、整備していきたいと考えています。この整備のための予算は組まれてないので、材料は、基本的に無償で調達すべく考えています。土止めの間伐材については、静岡市林業研究会の方々の協力で、調達できる目途が付きましたが、実際の整備にボラン



見晴らしの良い高台にあるベンチ

ティアとして参加できる方、ぜひご協力ください。整備された後は、この場所の生物調査をして、動植物の目録リストの作成も必要です。

また入口駐車場の下にある、旧テニスコートについては、現在調整池として整備中ですが、この場所、大水の時には調整池のため、一時的に水につかることも考慮の上、昆虫の集まる樹木、例えばクヌギやヤナギ、エノキなどを、また、アサギマダラが飛来するように、フジバカマを植えたりとチョウや昆虫の食草園として整備すると共に、トンボが集まるように浅い池を作ったりと、自然を学べるビオトープとして作り変えていけるよう提案したいと考えています。

館内の展示だけでなく、自然観察路やビオトープで、遊び、学べるような環境を作っていくことが自然系博物館の使命の一つだと思います。

ミュージアム周辺には、すぐ近くには、NPOの理事であった故杉山恵一先生が作られた、静岡大学の「学校ビオトープ」があります。これは現在ほとんど活用されていませんが、この場所の利用も考えられます。さらに歩いて15分ほどのところに、静岡市の「小鹿の森公園」もあります。ここでは、初夏には県の鳥「サンコウチョウ」やクロツグミの声も聞かれ、秋にはたくさんさんの鳴く虫やキノコも観察できます。

これらも、ミュージアムのフィールドとして活用していくことを、NPOとして協働して実施できたらと考えています。会員の皆様のご賛同、ご協力を期待しています。